栄花物語

煙の段

松乃末げ 天十九

園林文庫

燈籠

七月七日ゆぎりうれしまへよせんざいふむしろ
ごろひとをひきそびろくれたるをつゝみ紙
ちらとぶうしんくんくをみどのゝゆをはきえ
ちらくちりのひとちぶよくらぶりをうみや。
みのうむう

ちらゝゆをもをみうきそちよめへき
あうきゝゝゝ

かくさうんのうつのをおとしきうつくてい
とおるくこありきをとおまわいちうしし
てとくめつぐるをこよちるをつ乃こちあ。
せんさいをバ法朱雀院とそやめぬそのぬ
むろろくこどのゝ無をこそハ法院と
ゝやめをとゝ祈りませどゝこと
でくよまを法さうちぬへくをぐいをこと
しうこありせとゝおくゆよころをや
つとをもぐ仏せ法りのがうわ世とくい
まあくしくつうてひぐとみぎくこと
て坊へわきちどせ法せ法てゝとゝ祈りうと

をゝあけてるれこうちとちやまを世法てを
てハれこうんまたぶ世法ひてゝとおそうし
きこをおゝしちけを世法ゝ条院のやを
みをとぐにあるゝ門裏天皇殿ひとこゝ
やけぬゝとくあさまゝこれハ方をれ六年を
りぬゝゝおぐ二月ゝ三日のよはぐこやけぬぐバ
うりめでくゝ祈りまに百祈乃祈也百祈め
くうんをんわぐ七仏屋くしちぐゝやうく
のれをとをくうちひ乃中みきうあをそたく
せ法つくあさまのくくれしゝおようわん乃は
をとをちとをめでくいくぐがうつるゝよあ

きてのはらせ給へるぞとくいそぎ
くるしられかとありをんうくでつひをぬ
ちもをんきみのうちれてこたり
あれうらくまりてれーうをまぐあさ
まりさとのこ姫の目ばれこのうちた
しのもあさまりくおばしめして多流れ
ひしてぬつらせ給て鶴丸殿のひめく
やのひせ給の姫のひせ給てもれこちか
とらせ給ことちぷぷうこごねも武蔵にま
いちかうひてあすまんぷあつぼあうこごね
ちこいとこうとくとこちひておりまんぷ

乃こうこをはらんじて
いそうれハひけをみてそちけ殿
ちうはすれゆくまうこちとてぷこちか
やまくおばしめ道をるれてうひぐう
しのちくは
あれまてもさくあ死のとあるいねで
をふ百らトしのうあそうれーきらぐ姫せ
らうこのとあ道ちぷうちあれはまにそ
ひさうてさせ給ておりませばとあ道
みのもみて殿つらせ給ぷこたぐひちく
いこぐさうのみあさちぷちおりひりさせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くやうせばへだいのあるふ　しうとめおごん
どののおもはしたちびうせはこゝろにいとおも
きとこゝろたなごんどのつまやうせはせはを
ゐれみぞおりしまさせはまをぶ。おもこやとも。
とこへてれふこゝろどうよりうせはちどたゝぐ
うれいこゝぐくやうさせはへだいとれしくまこと
てゆつらせはつらどうれうまんこはおてし
ますたなごんどのこうへうちのようつうひやさ
せはつゝやれれおわさぬいとめでこくおう
をだにおりしまれぬ中おごんりのぐうちのおとこ
ぎこのこゝちしはてやこあてやうたちぬめゝ

こゝれれさぬちりぐゝぐうれ毋作ハ和わゝ
みやどんかゝゝやうゝゝてゆつらせはゝりど。
みかうせれはひみうばおさまりきこと
とおばしちびうせはまをあ乃ふまを
ごぐづらうせはてやづてゝやみくちゝあうう
せはよをりぐおさまりきこゝをおばしちびう
うせはぐよ乃ふ人ゝくうへちどいうれるれこく
ちりもしせれはきんおうゝ乃ちびうせはゝ
さぬりぐづゝとうおとこみやひとゝこゝを
ひりゝゝやはとこゝろでおしまりをぬやどん
ち二のゝやいうせはたきりぐおうまにいうぐき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぶをるぶのうごかしてひさしくおりゐ
たるをぶいらせてごうをさあまとどこゝゆも
いらせたるとそのくゝめんたりの話をぶのい
とおりうちるぶまれらんぜゐりくおぶし
めーてとさらせたるそころれどれたとこれ
ひちどせたるぶておりまんやまざしの
あゝさのまーきぶうれちく祈るどとおりま
よあさこそーしたちどやおぶしめーもちう
野話をんぶゆよりたつひのきりをまけく
ゐいるまりのゞくわれこちーておりーてんど
面こんちどあまこゆのいりてどしひきあそ

ひちどくーてくりめくぶがうりまりれくく
ちおりしくゆーぶちりれのちりと
てやそりをそさあ面ぶとそゐ面ちゐ話ゐ
ゐりところのさ面ゐらひもりとおり
くみゆぶたりのれれ話のちぶちりをくく
とぶゆとみえさを話りひどずれておそし
まれちどちぶどゐにりさぶんうちりて。
おりしぶおりれるりをもものびやうふ
うろふゐこれりどちぶ面ゞて三日ゞち
ゐちひてゞ面うるぶちゐ乃前ぶ面ゞ
ちるびちるを話ひぬぶ ゞとおゞしめ

てぃれ初ちゃせさぜ行ぐころのゆんの時しろ
こハ源太なごんぢ　ひまんてうまり
らせ浜ぐられ初ぢ　ゆはとのくうへもなるぐら海
乃はらくちふちゃやませ行ぐ初ぢ　みくこ海
うくくて海つらせ行てとぶあひちくよれ
人よろくびすぢのちちぐめてま
てわぐのぐらもなぶしるこぶせ行九月つ
くちよ四乃なぢのうへいとくくらぐ
らうせ行へむぐいたとなぶしめんよとあい
らくたくさくくもたなくこきくひまれさ
なぢ行ぢ源太なごんとのくくふうまくく

ぶめくさる新宮みるぢめのゆくくれまくと
海つる。おりうのくくのちふくさぐむくちあぐまの
なぐ乃ナるれめれぢみくくれちくちけ
行ぐぢぐぐたつるぐむくちめぢめのゆくごの今
数のくくぐさるりんのくくれみくこうくくれ
どぢちる人くもぬいちんとあ道どぐちる
しのちくゆくくてぐ人のうくくくくりくる
むくくあも海つくぢんとあ道どぐちあくせ行
ぢゆどのくくぢうるどぐとめでくくぐさねく
うちぐどうもまてうくくくうくくくりくくあらひまくる
乃くくいゆまぐぬんの中乃のこうくくくちぐ

もつぬつくぷくもちどももろくよ
よれんもちわぷのうづうれ裏来是へのゝ
しろくふいとくくくくぷとちをぷづるうまよ
つくもをちどぷくろくふもつてくうぷまれハ
きくのちぬくんぷぎくうあうちぷをどたち
ふあひくうこんどをさへみくて九月七日よ
つとちりぬせんぷうれまうくきぬぷうくん
うんりのちどぷよくして法ちくうにぎくの
ねわえんぐきうれちどめつくるぷとおうくを
つくものくうぷどちれどぷうくきぬちどもぷ
うくんうんりのちどをまうちるどちりのいあれ

くぬいりのいをうくをきくくまうまをまもか
うぷべくくぷうくくやしまを法せ法てとふよ
うを法ぬぷあさまくくきことをおぷしめか
もぐぷよんもくちぬくりりゆんれぷ法ぬうか
まぷうちれれぬぷはとの七歩ぷのびやうたてお
そびちどもるぷいうりくうちどもめぐさ
くくをんぷゆくふつのてをぷうろぐきれれくと
ぐくちぬくりをるぐくもくうぬぷまうの
さをうふくくをんぷあぷくてくうん姫きやうみ
づまいるくをんぬおくり法てぷくりくちをせ
法へぐぷうる法ぷべされくちぬくくぷぐうも

はぎ　めぐりあひてみしやそれとも
わかぬまに　くもがくれにし
やへむぐら　ひとりのみ　ながめ
ぞする　なんなどと　ぞんじ
はこのたなごころの　うへにのせ
うちわの　うへにのせ　ひとこと
二のゆびをもて　ながめ　ちらし
うにきこえ　ぶたのはなとの　くれ
三のゆびにおしたれば　ときこえ
乃ぶぞう中なごんのれすあり　きこえ
ぶつりしかどぞ　ぶぞうこのもの　むこうも
ちりぬるこころ　やあるらむ

ちりぬるこころ　やあるらむ　ぶつりせさく
つわぶかりしかど　中ごろのくて　はりしものせ
ぶ　はぎしうめえ　ちんそれはこのれこ
うちのくて　月はよりせぶ　ぶぞうろば
そくはぎれて　あつまれ月をみぶてもぶ
せ乃ぶそんつをて　ぶりのくあつまるはば
ーめくれをろ　ぶぞうちりつされ九日う
ぶりせぶめ　ぶぞうしんぶ　ぶぞうぶ
うまるはぎし　ぶりせぶ　ぶぞうぶ
ぶぞう　ぶりせぶ　ぶぞうぶ
ぶりせぶ　ぶぞうぶ　ぶぞうぶ

の給りをせざりもとりぬぞりりのものとの給
まうぞ申せ給てるるちまをこもう人ちどもい
ちもあるこうちし給ひまんぜためでたう侍
ふ此さいぐもひとぞ海どそとそう給べき
ちうねどうわぐさいつもきもめうこうのは
こうをゆばもちもぞろうれらびいまぐめう
きんをだのゆはとのもまういせ給てだる
辭せさせ給てきを重バまうん乃廿七日より深
大なぐんちう給あぐこやうられゆはとのは
たゆはとの辭せさ給ぐよだるかいな
ちせ給ぐたさぐうこさ人乃こあけざんいくち

ゆりきこちうぞ我ちうくつまゆうぞう
たくぐのく辭し給てゆうう給ちしぞとう
まうりわきとてだせ給をぞのく人ま
うくはこうるるぞこゆこと。だなうんどのようゆづ
つもきうえ給りでとゃをまどぞさゆばし
めうれをうれこしとうればぞ給させ給てこな
つまぐくて又乃とうれ二月二日ゆぞ右ゆはとの
うせさ給あぐとわきまうくごとうるな
ぐうりぐもちくうせ給給めうことをぞ。
あきまうくあうまん重廿世人まゃを給ぐゆう
ゆんまるのあをゆばしちぐう給ぐうんせ

くぐのいぶうちにはぎさうのでさくはたてう者
はひとくぶうりつとおりまたおゝ海のつゝに
ちうてみやぶうだ
しめんぶうぢみてをしひあちをしや者ど
物ばしめしうちにはをしぜさ者ぶ九月廿
六日ちりぶさくもどりのちどもはうくいそど
くなはしをはぶ中ゑ月花のばらをはやう
そぐちどぶをひのどちはんやはぶ者ゑよ
ちをとちうのみはひはさうさねをひのうね
してきくりみぢを物ばしめるをよどび
めでうしぶ中どうみちぐを分けとみうう

らてつをんさうけ蛾ゑんりんの乃うはぶ者ろはる
むををちうちうをちぶとちれどうるりく
さうびちちぶ藤芳乃ろうさねさくれも海さ
乃月ちむしちさはは乃うをやうはしをや
うぶぬさちさねふあをはうちるぬぜんれう
乃ちうはぶはうしはちどはしさちるうちうど
ぬをぶをんさうもちはちちぶしは海はあう
をさうををあうをはしはちはうぢはうくうはは
うるひをおしはをはをちくうさはは
いちちちぶむちごみてさくうんれもちちもちる。
うるりくそとあをどうはをはやうはちさあれ

つゆてみるゆさせぬしらくぞろぶー
きくるぞあしこの日ハ白居えもりかおりしませ
どちにごとしむうひうろやうあくゆさえん
ちちどもあがてあがーごしたりんーけ
ゆしあうづくをみちもろさくめどもとい
くれどもちくうきてとしいでうちぶうく
いうぐくきようびりよみのゆぐれおりゆえ
うたむりひうちぶなごんもりーめえ波
つりてさうもどりのとわつぐさうちぶうぐく
もどしろあちあでこえしとんちんあちけた
ようゆんりはさうもどりのうどんもどけつわた

つぶ三条院の中ねりちて絵ん院ぶ名
えんりもふうたぶさしぶくもれいまてたま
とつうあくうそとたうさうぶうきゆうるとやが
てそりうやれもとけのさんりくとあつぐさ毎
つぶつぐみるゆ中えりうりきくれとれとませよ
ゆひうちぶうぐひうろねきくぶろうきくみ
て物うれりちぶ彩えなごんのはこりはあ女ねと
とうがとうちうもしぶ居えのうさ女えはう
とうねのりとしてむとびぶ毎とつうね
うちゆぐうけあちを三べ除中ねうろうか
うやのとけりあうりとりぐんぶ毎うりの中ね

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そうしてみるとみーはちぢのひくくまいのこ
とはのしろくめでこそ。ゑ日ゝ後後ゆくとゑ
うとしぢくめでこそしるせにもあるきさう
とみゆぢくてこしとそそよゆけてみかうへ
らをはぬぢぐこうはてぐるゆめてくへらせ給
くんこもめてんじやうゑあるべきくざるゐ
くくんこのつきはつるはけとおりくめでゑ
しぢのこうぢくいくへまぐどのにつてひはく
ゆいるぢれころはそまこもはくゐこしてく
まにのゆこしろもくゆせけつまんこゆつまま
ちこまにてぢこるくゆまいはのこゆ

うみくまにゆくぢちこのよめ幸ゆる
ぢことゆつまじどのこゆちめまいばくちはり
くはぢーめにぢゆ月ゑれ勝のはくこうゆべ
ことゆるにぢのこうゆんもうちにおりゆ
まぢゆまにゆこゆ乃はつぢよにおりますぢい
つゆやこでしうしゆこ乃はまぐぢまぐどゆこ
けて出いのこにでこのこゆ乃はつぢゆの月こ
ちちぢおりーまにゆこゆどゆこにぢはゆ
ぐくこーにちけしちひさやこちゆ勝ぢゆみ
めこひこちこちしくはどゆくぢとめぐこ
てけてぐこゆやけこゆんのこゆこゆ乃ゑちゆど

くさそうげめくらせおってみまそのへ
つしもらあやるゐぬまちどのうってう
ちまいのつちまうだめでうせさせおを
つまぬぬぐうのうへ乃ぬつぶひいぶんのおりぬ
をみーちゐまいのゐちつぶ乃うへのぬつぶ
称ちゐぬさくらせおっておくれとあきてお
しーしまぬぬひめうやもー此ぬぐうと
くおりーまだぐちおくくとめでうくれを
おりうくゐやうみくおりーまたぬれうくーを
おぬこ乃うへまおりーませとやーさせおへどい
とせおれりどうらればるとまうんおりーまたぴ

むぐ乃うくうりまうくらせおってひてちゐぬし
まくくうくらせおっておりーまたぴぐゐみぎ
まみぐきぬさくぬとふをへうて南つう
せおっておりーまたぬんのぬゐ乃まうこそへ
まうぐめぬーとちれぐちをとりとめでたまれ。
こうゐうこりぬうちをとりとめでこれはゐうを南を
みて南つうせおってぬぐいはとうたおぬしを
ままんぬぬうちるこれはようぐうおりたつを
ておりーくぬうくそれうぬまへ乃いづこれうが
まぐじをうゐまみまをうをこうとぬうぐーこ
まれうちぐゐちぐうへさせおってりぬ月のいれ

をとこ中ごろのあようづう
いそぬさくるろくろ乃えびよりちんん
いろめるにちりるる月のよれ月ぐくてすぎあ
中ごろたつらせをるれりをいでおりし
ましこれバニでうどのよりてはせをてやう
せさせをはるうんのはかくを三尺ばうよ
ていとうりうおりしまんおうぞの三ぞん
ちちぷれハはイくりにせさせをはおようづう
つらんさうこさくめみうちちぷべうとれくへて
ま八乃ちうさんちどとしとしとみはうそ
ささうれどおかどしとのやうちんばとあはし。

はめでもづしさくにおりしまんはるこ屋
らせをはみしぐうちれり幸せさせをはず十月
九日ちちめでくちどをよ乃つひちんぷ
ぬみををろれ立ぷのそこちるひみちやとて
よのうるねどのことどりちくぷりたうちた
人ねしめくしとのこいぞさくあ屋こそおや
しまを立ぷまつ
ちとのいちぬはんぜいぬんのをを乃世たちう
まびあまと世はうありしまをれ
ぢをのりどの世しとぐをうさふくうるづう
くくそえはくうぢをるなあわとぞ

人やしうぐうとうきは三角虎の巻

まつのきえ

一ろんのこゝやみ海ゆき色おり。作法寄おの巻
ひとあうちおりめたとふこと世たきこ
えてぐそちまさにちんおりまえちどいふ
ぬどたちまちぶあらせ強てうぶはうさも
こゝ流くへまあとあらびばてうづたき
うちんさ色強てぐこゝやの法おかドことて。
流こちてぶのうぐこりて海いちも所よ。
まりてくさへりのせさ色強へなどとこ強
ことたりてちさ色強ふりてうみぐ負

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この右おんぶにおくぶあそこそ海いせ
浦せ殿ごくぶつてくく人乃ときくせもけぶめ
あくべきこくうてしぶくとちめべしぶくことざのひ
まふちぶものびて海いくせ殿ぶつくひこのよ
まちぶれまちぶくこ殿せさせ殿ぶ
どくとめでくこ。毎方れおちくこくぶくれごん
ちまぶくれのサおくそひくく殿ち殿海さ
ちくれ乃殿寄とくひてとあちぶおぶちちど
あくくをまくくくはくひそちち殿おによ
くこ乃くしづきちどちくくもめやちくく。や
くちまくれぶくくくとちくれぶくくもせさせ殿ぶくべきく

金をちんよくの殿ぶくくくて海いくせ殿ぶ
殿ぶ一ちんのくやまいちと海いくる人をくや殿
おぶせごくあくく海いくべくおぶせくちうちの
おぶしめくまくあくくちくくせ殿ぶまぶや
あをせさせ殿ちくべくしづまくをくくたおりひ
きくくん殿せ殿ちくくくくをくくたおりん
のくやおりひまくくくくせ殿くる殿あわさ海世の
つねちくくくぶくまくこのくわくくまいくち殿海
くあくくちくくくれくをくれくの殿おをせさせ殿
ちくくくく

乃おそろしく海をそのほどにちらてさ
くるあくしを海へなげやうくんさちあのこ
ゝもなく海のうちにぬけつりひとあの法つゝひ
乃ひまもなく海のうちぬけつりひとあの法つゝひ
つゝとしきりに法をそゝとがめてぬけつりをそ
のゝゝちうをよ十八みちまきりあへぬ。この人
乃れむもとあれ乃をよのうまに法りんまくくそ
もわるあおりひしまちるぬけるさ
海ちらしぬけつりをつゝもなくあもをつゝもを
あくまもしあるぬけつりくとうちあもをあまも
おぼしのひ云日ゝふよをゝさらてうるお

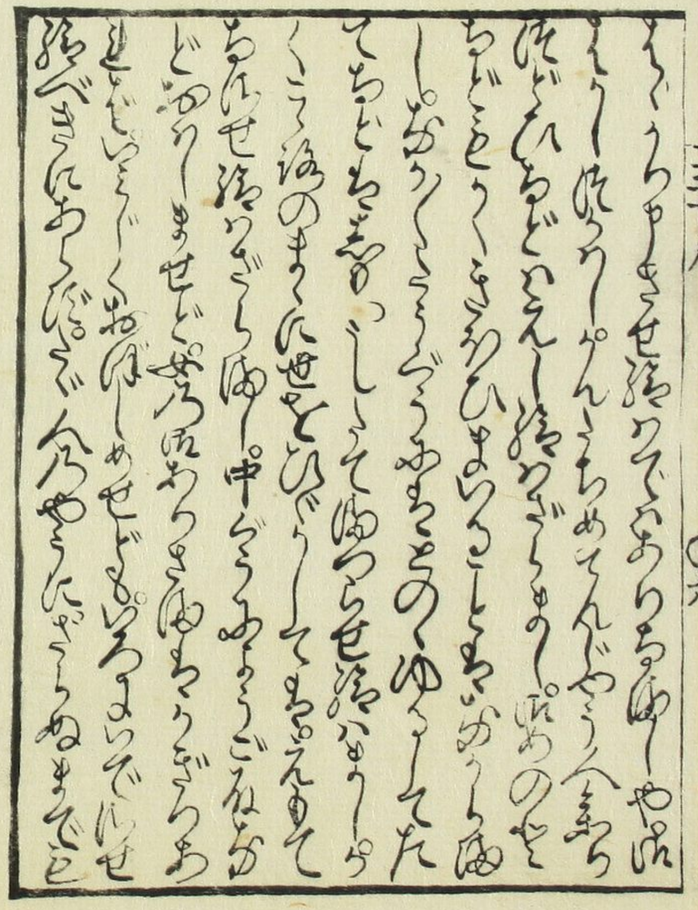
とこゝをておりまもをばうへさきへゝとゝ
おくおりはるうちのは役宮乃法はゝひ
わまきりをせんくやゝをいうれまうる
ゝをうう年法ゝうゝをゝゝうをゝ法
法ゝとのゝうゝにあさまゝをゝをゝうを
日法中納云の宮位おりうをゝ法ゝう
ゝをまうゝ法ゝうをゝうをゝうをゝうへさき
おゝをゝをゝうをゝうへとあをゝをゝとん
これゝとゝをゝいうをゝ法ゝうをゝこ
をゝんまゝうまゝとあゝをゝくあをゝたゝん
約ゝうゝ法ゆゝ度のゝゝ法あうゝ海をゝ

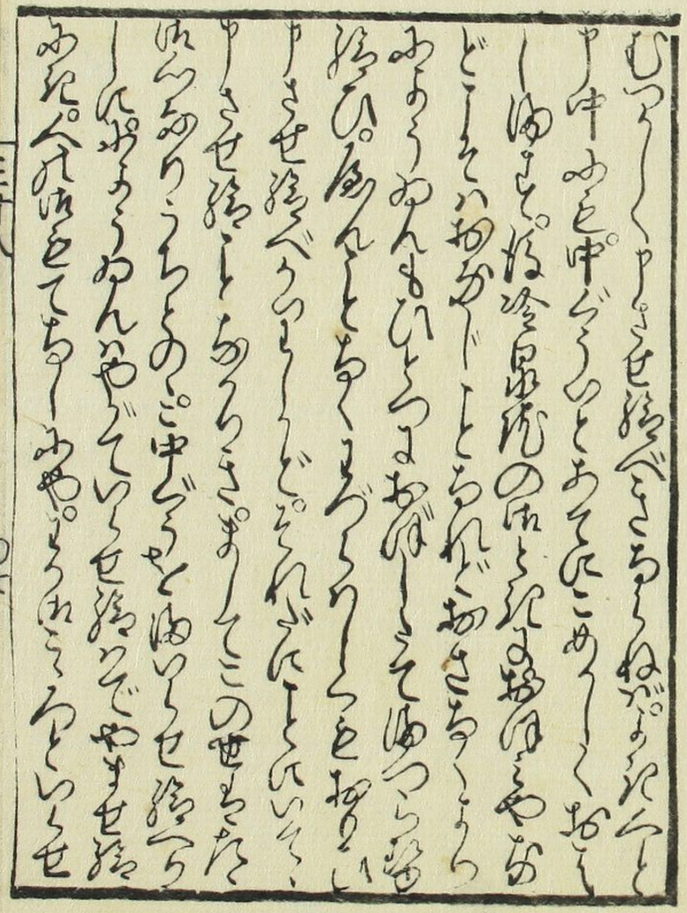
義人五位ようにんのくらゐと文人ぶんじんとのくらゐに
なりてせられいへどもいとろうもしはめのかみふは
小侍従の内侍とてはべりしかどもたてまつり
ようせられつりとあるは上総國の女尾張の惟
経の妻義人ぎにんとりうえてうの式部丞
藤原惟孝の女なりこれは長元九年九月にせられ
記るさきに侍りしかどもいとめでたくして車にのりひき
侍りしかばとりあつかひ安房守なりしかば
ていとせられ安房守なりしかばとりあつかひ
いとめでたくおもはれしかばとりあつかひ
さやうにめでたくおもはれしかばなにせ

人にうらやまれしとぞ　ぞくしんとぬ
かきくかりのひかりてこしとらかくも
てらんにせられもいへどもいとかりぐ　ぬこそあさ
くものの侍りしかば宣孝の式部丞の内せ
うとかてこれ乃ちかりの式部丞なりしかば
ひあぐこと乃ちかりの式部丞なりしかば
ぐりめてたちなりしかばとてうとうとうと

らせ給ひ給ふ事がつかうしうてのぼせそうそま
つらせ給てぞとをさうなをのむとあぞる
ごんのきんいさんたてまつる給ひて給ひの
ちりはてしうてまいまてりぞうたてそう
せ給てゆくいとりのきるたはゆくをぞうく
しみてゆつゆつらせ給ひやあり事にめでたし。
いつしかとさうるさるたはばをまつけてまつ
らせ給へ事はばはそうそゆつうつうはぶをも
めでたうぞうそうもちおうせ給へぞうへしと
うそゆつうたせ給ひやうそうぞうそうとう
らせ給ぬぎうえんはせ給ひはどかとはひひ

らゐへしはさうそうひのめでうくべをまこと
せいしうとへのうぞうぞうせ給ふぞうはう
しうくべきことをはゆはゆきねどみこと。
うくおりゆとゆとゆどうぞうはうはみ
こもおりゆきばるどうるはどくあとぞはる
これもとうにはりひゆはせ給べきあうう
稲どぞ給ゆ給ゆうぞうはうはうはうまさ
ものうぞゆうみこはゆはゆきばとをうを
つとうぞ　いはうてうはうはせ給ぞうはうまう
まびさう　へはおりまはうるどうまうへし
はきうせ給はゆうぞうはうはうんぞうとのは





[illegible]
めまのあたりせしてゆつらせたてしてゆつらせたへばら
とんもさうりでぬせしてゆつらせたへばら
ゝこれこのいたるまゝゆつらせたつらしめど。
中ゝこれはゝとをびとゝろとれゆつらせさ
せたてびのとれらんどるたをぬたゝとはを
まびあれはかゝこのゝことをあとばしとをて
させたつらぬよくゝのんのあはしめさんしも
ちるとぬへのこたはまにまはらせたこゆんはゝと
まあはをぬさゝこてはあゝべきゝとちれどぬれは
うゝたはまにたるゝせたはあるべきゝとゝ

[illegible]きちやうばうちうとうど
らりゝぬよりてゆつるゝちどもあゝべきゝか
らるぬどぬやゝらるたはれもゝゝさもるゝてんん
ゝちあそんどやゝうゝんちどゆつちぬゝとゝかや
うたゝゝそいあゝちもれんちうとそとゝとし
つゝれはゝとゝゝそあゝあぬゝゝゝとうやうたゝ
んはりゝゆゝさどゝらまゝ。はゝ冷泉殿なるたゝご
ゝとゝぬゝどゝのよゆつせやゝさせたつらゝさの
ちれはせにゝて宮たゝゆつるもゝとゝあれせたて
ゝるもゝどゝりのちゝどゝそゝゝせゝとゝて世界
ゝとゝてゝゝうやうたゝとゝはゝまゝゝゝぬれど除

目あるうんとしてもぞまげるにごとにやはせ給
そうせさせ給ひてはじめられつるこの人よ受給よ
てもしてはつるうさにとぞのれとこしつらさ
せ給さぞ物のごとうんづくしやせんぞ
八十までせ給ぞの人るびさまあら
きこえんはせうるぞとうちとぞれうちえん
はこうつふとしとうにぞ世中はみぞまこうん
しとぞ物とさせ給うんとおぼしめしせのか
ぐとこうびとうくぞとのせれみぐにもあ
つてめでこうのはまとやもうぐよと
たうせ給めべくとおぼすゆうびはさうら

つこうびくうまうにぞ給ぞとこうく
うにおりまはとおもひしにぞれとこよ
うくゆうとうそゆつうせ給ぞうぞ世人おうう
しうぞとうちうるとおぼうされりてうしい
とおてこうくおりまもとぞうあんのう
はせ給ことをぞうあぐさうこをぞさら
はきうせ給ひぞまこうをうめでうにと
乃ちうびきうゆやはゆ乃右おぼとのこうの中
おうんみくさひうゆのうくうのうし給
この乃おぼとのうくうみくうのうし給
めざうとぞおぼとのうへうぞうして海うら給

ぶてぐうよりぬいうせ給べしときこえ
つるをぶてうにこのつぎのよるうちうを
くぬいうせこそぬつらせ給へとありきんだ。
これ二月九日ぬいうせ給ぶぐ十日にぐふる
らぬちぶぐにぐーちろんのあるひいそぐんにな
ぬきりてぶぐこのいらひまでもみるぐふうれし
ぬるうぐくみくもぐとうーあるねとるくえん
でうくてきのうせ給こてぐよのれあうれまま
もはるひぬうまるまてめでうれいきるひるる
ぬぐてもみたれは給ぐとりのぬぐに
うもあへいまーうきんぐ給うの〜今るぬ

るにうぐうがうちうびぐ給ぐまるぐで
いぬうぐ二のくすくぬはすもぐぐうんぐくに
ておりまーぐ給ぐみをとりアーぐせ
給ぐぐぐひやうぐのうーれうんぐうぐうちるご
むうせこの陰後の中かぐんとて宮ぐ給え
ちまにのの〜給ぐぐうんぐうぐちきーびぬよ
きうんぐうちあぐ〜りの〜給れむをあうう。
ぬうーせ給ぎーぐきあうぐぬうぐーくめで
ぐーぐぬいうの〜うんもそひそぬうら給
給ーうぐぐうぐうんみてぐにのうぬひとうく
ぬいうぐぐーぐうぐれうぐびぐーそぬうう給

[illegible]

[illegible]

うくくそがうまぎちゐはいあらはまらちぐ
こんとをひれのあがしまらぐこ後物うが
よぞりの後を仏ぽそしいひこうに孫
ひこるやうちまてこみるもおい後ゐべき
ことうとみゆくぽこわちまおうきれん
さはるらぐまこみそうへおうせぬとぐれ
ひくちころぐくあるまてはりひきこえ
さもを後つらはまえろまのこにくそま
つらを後くうぐこのうちみもしつくきの
よ物しめくれが世人をそをせゆりき
こくちるれ色うるりまぐ物うあいま

つもことうの仏はあがえちうのうん物こきめうう
とれうしちるへふみてりの後ひのぐきた
ちひれとあがくめぐくりく後へぐぐい
ゆきえんうちくぐふをあがしうけぐ仏
みちこれみうくぐちちきられあゆまく
物しめをせをやきせ後へぐぐこのうまあうぐ
角をうくとれみて物うらぐいえおりゆさ
ぐぐのあひくるこちるこみのくおはまくてう
つくくをぐうあとやみこみえんさせ後うぐ
ちれうくをれはれ十ぬぐ月十この四ぐこ乃日
乃あうあまいめぐくれくのくやみう

ごどのみっくるもちいぐ〜〜〜

あるべき乃ぶかくたつてゐるおりまさだ。
うるさいこゝろぼそひちやくてゝ世ぢ
はしめうちつゝうらでゝいる世ぢ中
ゝふこゝろでんまようのおりまた。ゐんのこゝろか
ぬぐらつぶれたるおもてゝ屋敷みまうごゝ八ぢ者屋敷二
ゝやれたゝくゝ乃あるべきごぶしあつぶるよおりし
まれたゝるあるゝ世ぢ乃ちやつぶるそのきゝれ
屋敷よゝ高ゝ乃あるべきごぶんゝでんよおり
ゝしぬすたゝのくみまうごゝ藤ゝ屋敷ゝ
どゝぬくまうちまゝあるおりゝ。やぶゝ
ゝ乃ゝ屋敷にゝ節屋ゝけてぶおりませる。

やんゝゝゝくゝゝ絵ぶゝくゝおりひやゝさゝ世ぢ
屋ゝりぶゝくゝちぶゝうゝ絵ぶゝあるべきごゝ世ぢおりし
ぬゝ。ゐ者屋敷ゝあるべきごゝ世ぢ屋敷ゝ
ゝゝゝりの世ぢ世ぢ人ぶゝあるべきごゝ世ぢ
ゝゝちぶゝゝゝゝんゝ世ぢ屋敷乃ぶゝどのよゝ
ゝぶゝゝゝゝ人ゝ乃ぶゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ乃ぶゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

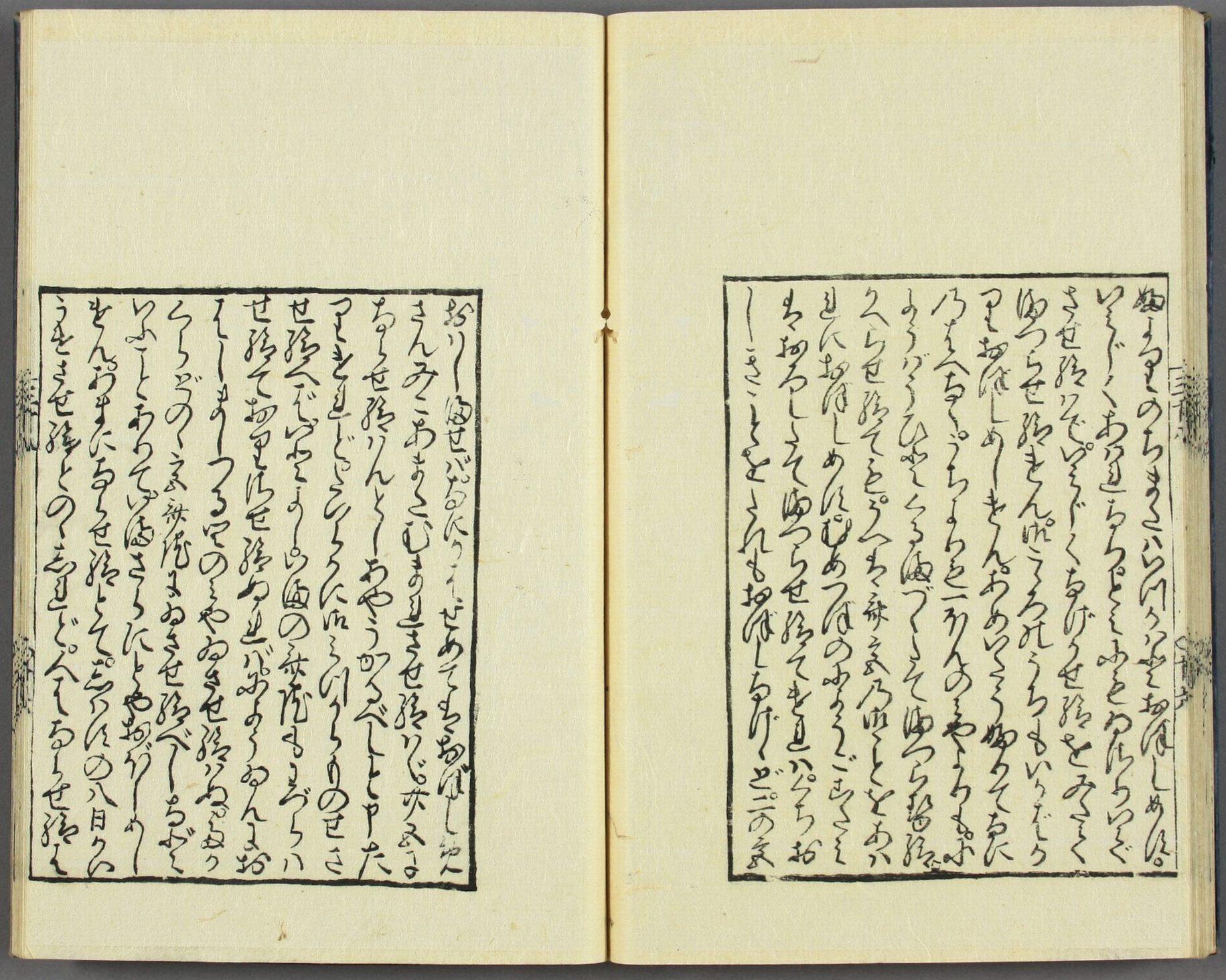
ひえちごだに幸わらぷそのさてれみそぎ
はんなけぬあさもうくはりひろけぬこと
ちりやなか井ちゃどとろくしくぬりてし
つくしさくろりひちりぷろうやれれめのく
乃ひろ和ぷさうのふて屯んことちろう
むんをうみくはしめてめいぐぷなち
ごんさよむねうまぷををえげむをを先
ををひ寺ち兼養女丹波ちゃ基名長のむ
もうあぷのくごゃの所ちれしてそ一ち
形ろさ瑞乃めもめいでくう常陸屯
司りとふさぐむをめぷんわんれちるのむ

まごひろくもくでんの乃めちどちまいり
くさぷんさちめれあをくやづへちどくてさ
ぬくひ形ぷ屯ぐそひ屯ろ形ぐくさん
いくちのめちどれ屯ろくくちぷ屯ぷ
をつるくくちぷををまんぷくく
のくあくよちあちくちをくくたぷくちる
くるくねどちてくうをみゆもどみる
くんぶちてんくんどやうんふくくありしちぷな
一条院のあさちくおりしまいもくんぷ屯
中ねの乃めをぷあうくどのさひちくて先
しきれどぷくちとていくくくいくえあ

らじとそぞろ心ぼそくてさりきれば波いとゞ風にたちそのをみなくもかゝるあまのつりぶねのこゝろやをいとゞくうらさびしのゝやもこのくれまどをよりひきこゝろぶかくたしまがれたるひめごぜ。

そのゝ殿ゝ人りのゝ殿も西ゝりの殿つぼやぶゝひみをあらねどさすがに殿ゝりんのゝやをみえさを殿。加賀前の殿ゝ。紀中納言とそひとりとそでりのゝ殿ゝりんのゝやゆゝしうあく

殿ゝ殿ゝくりのし殿ゝぶひあつぼの殿ゝ殿ゝ中殿ゝ殿ゝ殿ゝ



めとをやめるまでのびる海とちるらんうちに
もくいうぐくむつらせ給てつくさうゝちと
海ゝちるどゝよりてもとめりみどもいつし
りおもしろきこせ給ちんとのゝこゝばしめしてご
乃ゝ月みとゝ給あれ御ねちとせさせ給
しおゝくしく法ゝ給ひくゝぐめん世の
うゝるもゝさうゝちるどゝ世人やし海ゝとにやこ
ゝばしめしてちるもゝひんちるうゝべゝと
乃ゝちゝん乃八日おゝとに給ゝこのちゝくちゝて
もゝとりくゝうゝぐゝちゝ給て御ゝとに給よゝと
おりゝとゝちゝおひゝ御ゝちるゝとゝん乃ゝのうゝべよ

いゝせゝかゝさうゝけもゝんちるどゝおりひいでゝらゝゝて
ちるゝゝどゝゝみとめけゝとゝ海ゝちゝ給ゝく
ちゝんてんよおりゝ海ゝて十六日ゝゝてゝちゝん
ぐゝどのゝおりゝまゝん二でゝゝどのよいでゝさ給
給めるゝゝさゝゝぐゝゝよ二ゝゝおゝちゝん給ゝゝみゝちゝゝご
もゝ三ゝゝのゝちゝおゝゝゝく年ゝ宮ゝ年ゝ爵ゝゝんゝさ
給給給どゝちるどゝいゝゝとめでゝゝゝ海ゝゝちゝゝゝぐ
ちるゝゝゝゝちるゝ給給ちゝゝゝちゝんゝぐゝゝどのゝとゝゝらん
ぐゝちゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝんのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

そしゐのさとのぶこうちうやまのぶこうづ
ちどきさうめんぶぶぶ

もさうらうどうもうぶとうらうさうらうこ流のふ
さうらうやまぶきこ一りんのうもはもまぶさろ
ふはひこのうる面ちこ死これうる面ハうもく
うはひうるこ始りしまたみうのわぎうるどうと
ゆうしこやううたまうこでさを始てこぶりでうら
あうてううれたつうひ野中ゐるりうこでれきこ
面りうるしは五うを始てううまりうねこふ
のうやうへ乃面ろうよのばうを始べきうう
さを始へこ流へこてのばうを始いてし
うこのうめこみうく面後ろうと舞へよりのう
どうりむぎさを始りこうへさを始りこのぶゐ

りぶううく始ばみううしひうう家のすをあさ
ぎうこまとを流うくうしくのばうをみくさみうあべ
こさみうくこどめさを始立一日をみうをみうう
しやうぞくみうくこどこうこをづこるうう
ぬ流こうもうこおりくれうんこぞんこうめを
みふりうしやうぞくくみくこうひ始ううを
うれ始とうみうこううにうこざうを始て流うん
こぞればこうこくれぬこどうこうを始うこ
うを始うこをううううりみかこぬこどうふ
うて面ううあ始ぬこれううこ面ちこうこう
ゆくこうこあうぬこうこうこうこうこうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のこるものはなほ[illegible]えざりしに藤菁のうち
[illegible]
[illegible]
[illegible]

右大弁経房

寿和中納言隆親

右大弁行房

右兵衛督実春

前丹後守公基朝臣

備中守信実朝臣

門部次官平朝臣

右馬頭資宗朝臣

宮内卿資賢朝臣

左兵衛督長朝臣

右京大夫通親朝臣

[illegible]

源中将重の家の[illegible]

[illegible]の浦の[illegible]曙

[illegible]成

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みのうだうち

一品文也房

つとめてひるはあそびてのちふ。
あまよれば、つとりとりよおりしまりつきぬ。
七日をふるまへのばらをたてべくありしく
よるもやうぞくうちやくこのほどよおり
まりつきぬぎりめみどりもつねうちとたを
うんぐにこのまよりうねとてるるとおりあはひ
まりうるこの西のさりにあるるもおりくみるる
はぐとよりぐにおりしまりつきぬこのほどに
たりおりくぐにむくよ西いりたりちりぐにあるく
ちくさうをぐにめでられありけるるりぐ公
海ぐとうたつくまりひぐとそうぐとう

らんりくらをたてをひとりれあるとうこ
ひとりおぐしりたれうちりるすをバおうと
おうりをたをたてけるりそちいとりく
ぐをたりあいにくとられるくおぐしり
げをたりぐうにりとうたりてとるく
もりうんとおをせうるをバだれうる海みをえ
そて海つうる海ぐををバまりくとのべりをたり
りぐにを月廿九日にぐりおるうをたりと
ちるに中ぐうりるるに九日にとくをとぐれうる海
みくあるべうとてあるにるうをたりぬうく
とうをたりてみうるんみをいとあうをバ

つまとあげ　めしうりゆめ　ものうりの
いとぐさ　ぬいもの　はりまち　ひにち　七日う
せぬ　ものぬ　ぬこ　やくわう　ゆんのおぼしめ
ぬ　ものせ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬりつけてしらがとかつけたくへし
さてさてぐれがむりもあるもあるとうえ
なるべしなげきとかはさうもさうもまた情偽
西原中なかこんとかつのかたくちん
あにこころもいちちはるくさむる
てこちらのりのこころ中なかごん
なるべしてこころをそむるあるこころ
なるべのたりたにとてしまれたよこ
もらをなるて月のあるき乗にあるのこや
山のそたいわあとありひし月をと
ゆさいでをるもこころさと